

令和元年度 調剤医療費の動向に関する調査分析

令和3年3月

健康保険組合連合会

政策部 医療保険グループ 調査分析担当

【調査の概要】

本調査分析は、対象となった1,295組合（本人：1,554万3,470人、家族：1,165万1,015人）の「調剤」電算処理レセプトデータをもとに、調剤医療費の動向と後発医薬品の使用状況についてとりまとめたものです。

本稿による統計数値は、対象組合数が限定されており、必ずしも組合全体を正確に反映したものでなく、若干、偏りが生じている可能性があることにご留意ください。

また、1人当たり調剤医療費等の対前年度同期比（伸び率）については、令和元年度および平成30年度の両年のデータ提供のある1,263組合の数値をもとに算出しています。

	組合数	加入者数（人）	医療費（円）	レセプト件数（件）
令和元年度	1,295 組合	27,194,360	884,570,398,620	104,948,508

【調査結果のポイント】

○ 調剤医療費と伸び率：

令和元年度の1,295組合における調剤医療費は約8,846億円となっている（p.3）。

○ 1人当たり調剤医療費と伸び率：

令和元年度の1人当たり調剤医療費は3万2,528円で、伸び率は4.7%となっている。年齢階層別に1人当たり調剤医療費をみると、年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にあり、70-74歳：9万9,293円が最も高い（p.3-p.4）。

○ 処方箋1枚当たり医療費と伸び率：

令和元年度の処方箋1枚当たり医療費は7,039円で、伸び率は5.0%となっている。年齢階層別に処方箋1枚当たり医療費をみると、年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にあり、70-74歳：10,181円が最も高い（p.8）。

○ 後発医薬品の使用割合と対前年度差：

令和元年度の後発医薬品の使用割合（数量ベース）は79.8%で、対前年度差+3.2%となっている。年齢階層別にみると、30-34歳：82.2%が最も高く、対前年度差では0-9歳：+4.5%が最も大きい（p.13-p.15）。

目次

1. 調剤医療費及び件数、処方箋受付回数	3
2. 1人当たり調剤医療費と伸び率	3
3. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費	4
4. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費の伸び率	6
5. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率	8
6. 年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費	8
7. 年齢階層別にみた処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率	10
8. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率の月別推移	12
9. 後発医薬品の使用割合（数量ベース）と対前年度差	13
10. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）	13
11. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）の対前年度差	15
用語の定義	17
参考	17

1. 調剤医療費及び件数、処方箋受付回数

- 令和元年度の調剤医療費（1,295 組合。以下、同じ）は約 8,846 億円、レセプト件数は約 1 億件となっている。
- 本人・家族別にみると、本人では医療費総額：約 5,072 億円、レセプト件数：約 5,402 万件となっており、家族では医療費総額：約 3,774 億円、レセプト件数：約 5,093 万件となっている。

調剤医療費

1,295 組合	医療費総額（円）	レセプト件数（件）	処方箋受付回数（回）
合計	884,570,398,620	104,948,508	125,675,357
本人	507,193,616,910	54,022,387	62,288,839
家族	377,376,781,710	50,926,121	63,386,518

2. 1人当たり調剤医療費と伸び率

- 令和元年度の1人当たり調剤医療費は3万2,528円で、対前年同期比（伸び率。以下同様）は4.7%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人：3万2,631円（5.4%）、家族：3万2,390円（3.7%）となっている。

1人当たり調剤医療費と伸び率

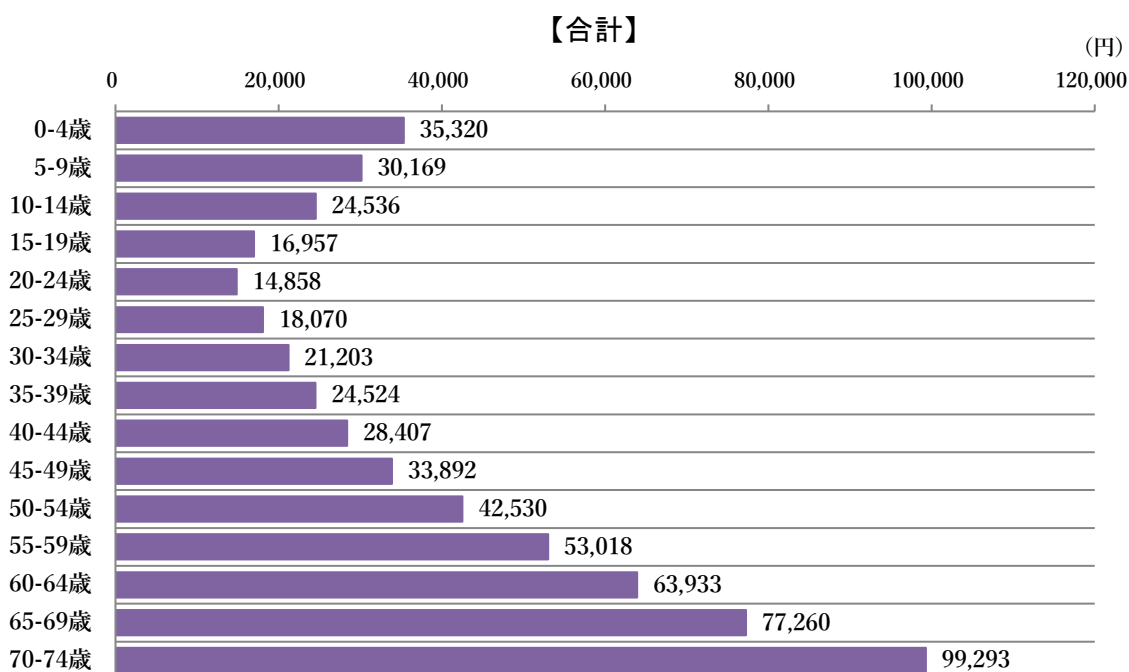
	令和元年度（円）	平成30年度（円）	伸び率（%） ¹
合計	32,528	31,139	4.7
本人	32,631	31,051	5.4
家族	32,390	31,254	3.7

¹ 伸び率は、令和元年度および平成30年度の両年のデータ提供のある1,263組合の数値をもとに算出している。

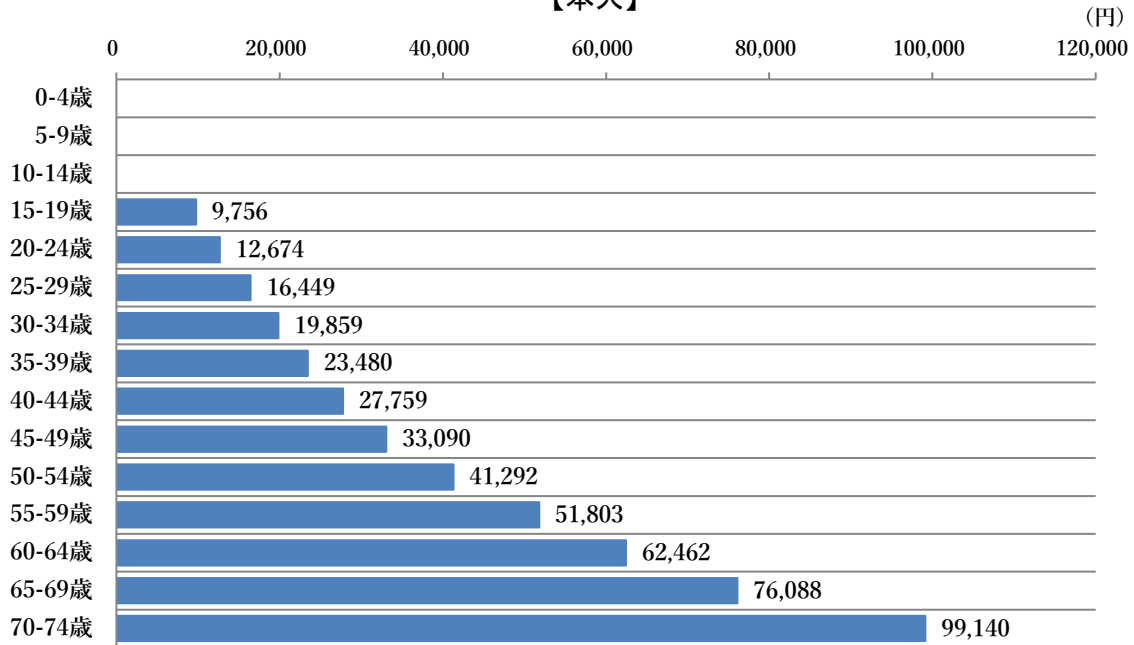
3. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費

- 年齢階層別に1人当たり調剤医療費をみると、0~9歳で比較的高いほか、以降、年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳：9万9,293円、65-69歳：7万7,260円、60-64歳：6万3,933円となっている。
- 本人・家族別にみると（p.5）、どの年齢階層においても家族のほうが高く、本人では年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では9万9,140円と、15-19歳の9,756円の約10.2倍となっている。また、家族では0~9歳および25-29歳が比較的高いほか、以降、年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では9万9,485円と、15-19歳の1万7,480円の約5.7倍となっている。

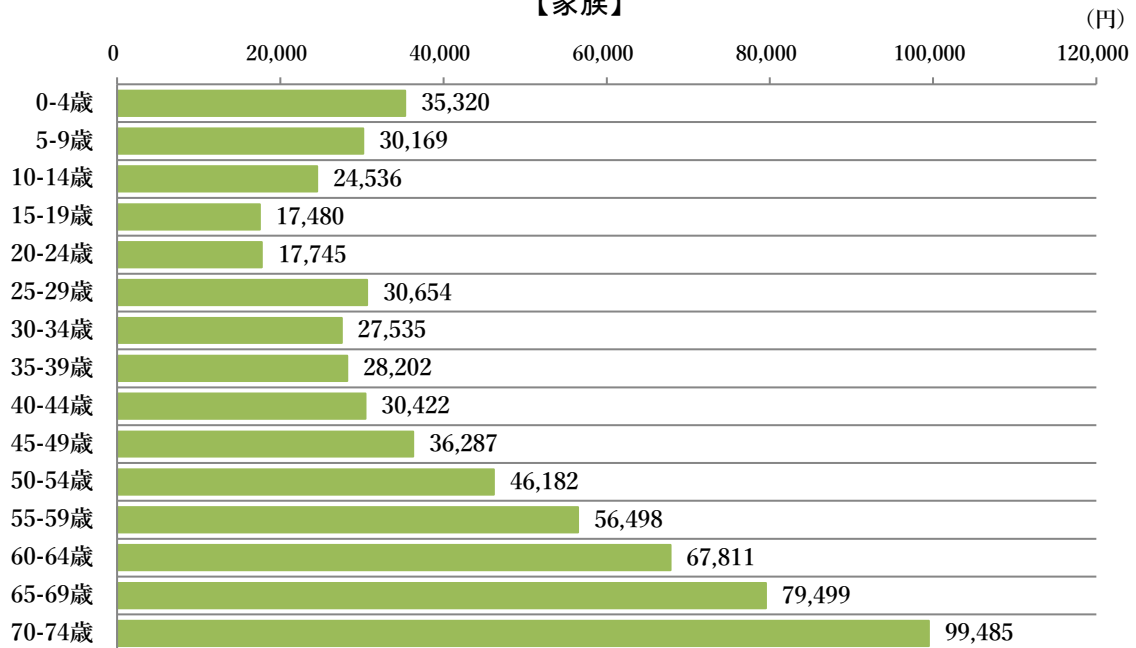
年齢階層別1人当たり調剤医療費



【本人】



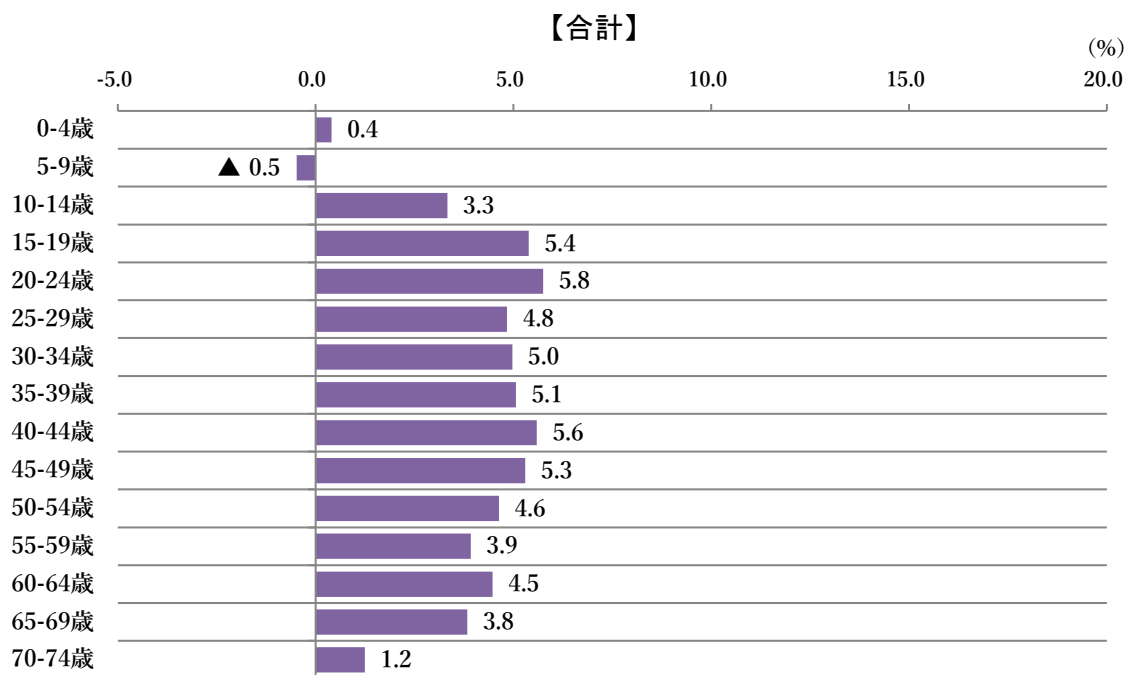
【家族】

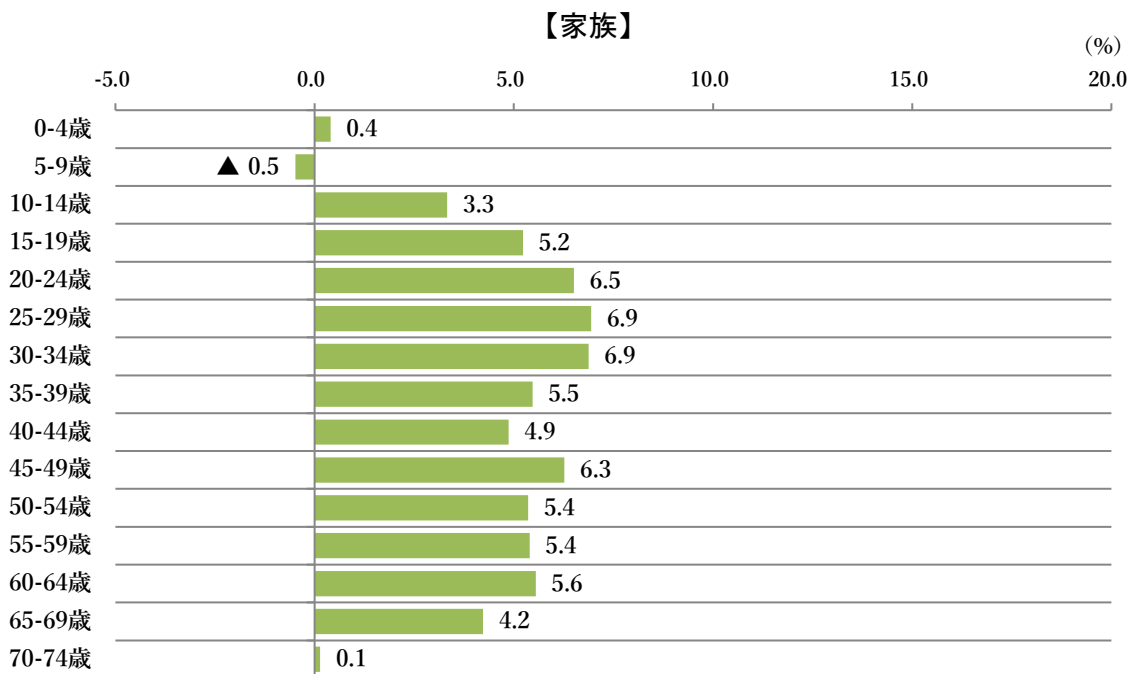
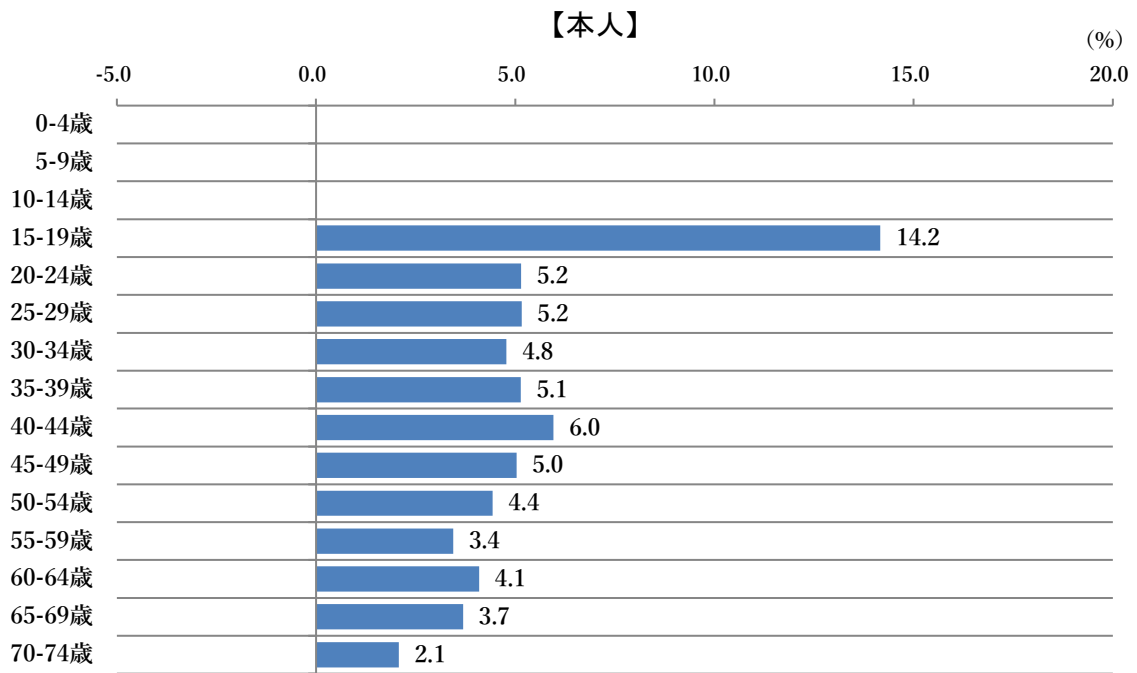


4. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費の伸び率

- 年齢階層別に1人当たり調剤医療費の伸び率をみると、5-9歳でマイナスの伸びを示しており、それ以外の年齢階層では20-24歳：5.8%、40-44歳：5.6%、15-19歳：5.4%の順に高くなっている。
- 本人・家族別にみると（p.7）、家族の5-9歳でマイナスの伸びを示しており、それ以外の年齢階層ではプラスの伸びを示している。本人では15-19歳：14.2%、40-44歳：6.0%、20~29歳：5.2%の順に高く、家族では25~34歳：6.9%、20-24歳：6.5%、45-49歳：6.3%の順に高くなっている。

年齢階層別1人当たり調剤医療費の伸び率





5. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率

- 令和元年度の処方箋1枚当たり調剤医療費は7,039円で、伸び率は5.0%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人：8,143円（4.1%）、家族：5,954円（5.2%）となっており、本人の処方箋1枚当たり調剤医療費が高い。

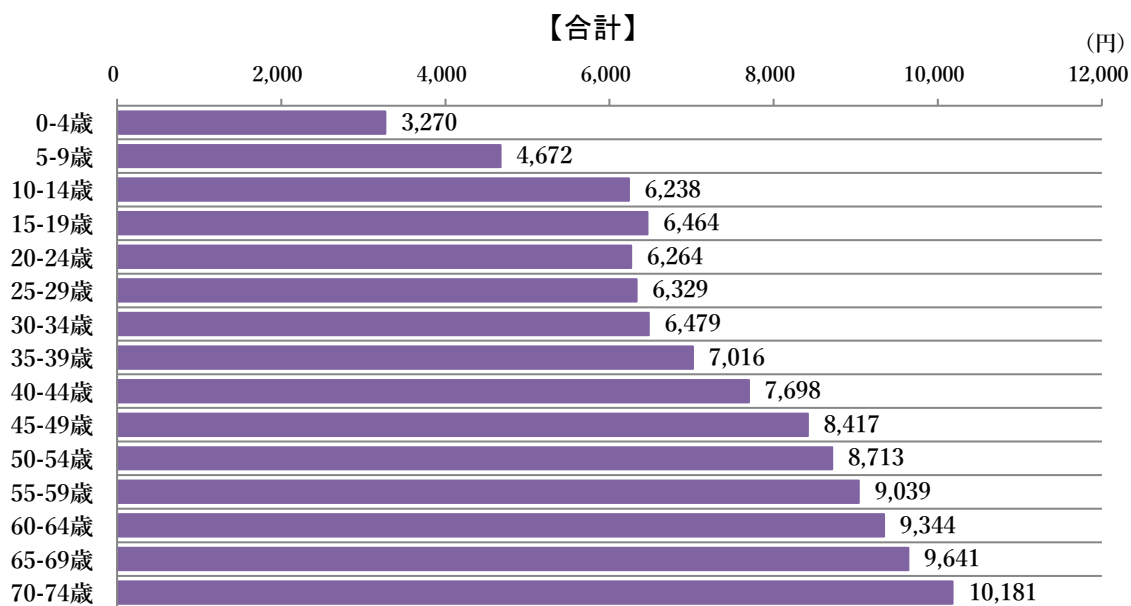
処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率

	令和元年度（円）	平成30年度（円）	伸び率（%） ²
合計	7,039	6,708	5.0
本人	8,143	7,829	4.1
家族	5,954	5,663	5.2

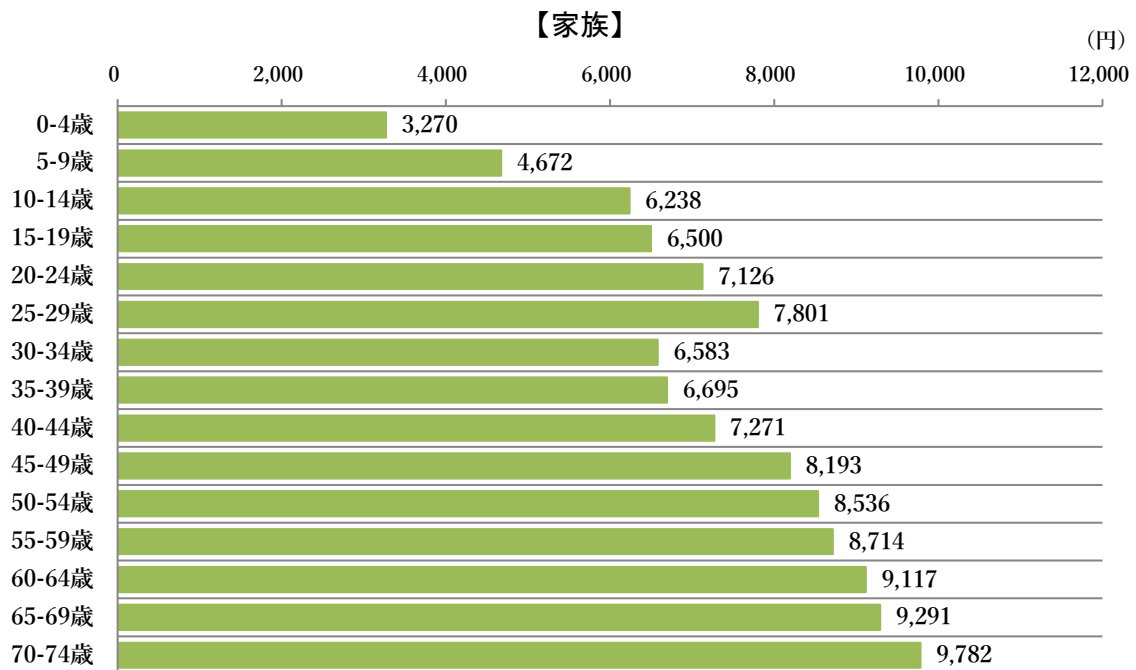
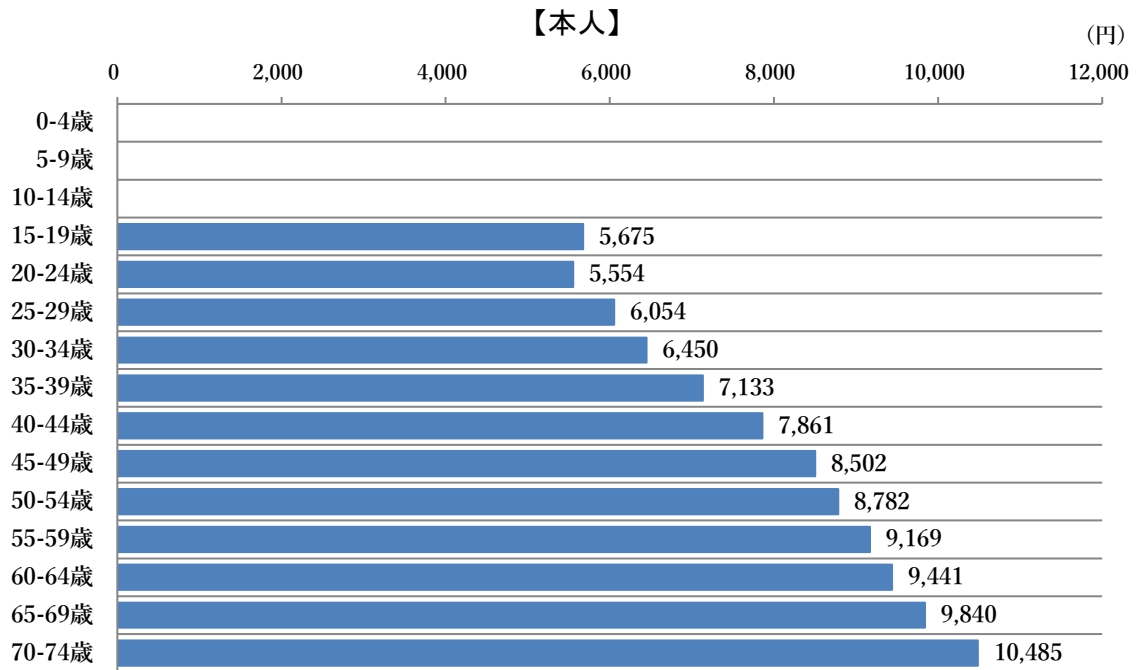
6. 年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費

- 年齢階層別に処方箋1枚当たり調剤医療費をみると、年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳：1万181円、65-69歳：9,641円、60-64歳：9,344円の順に高い。
- 本人・家族別にみると（p.9）、本人では年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では1万485円と、20-24歳の5,554円の約1.9倍となっている、また、家族では20~29歳で比較的高いほか、それ以外では年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では9,782円と、0-4歳の3,270円の約3.0倍となっている。

年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費



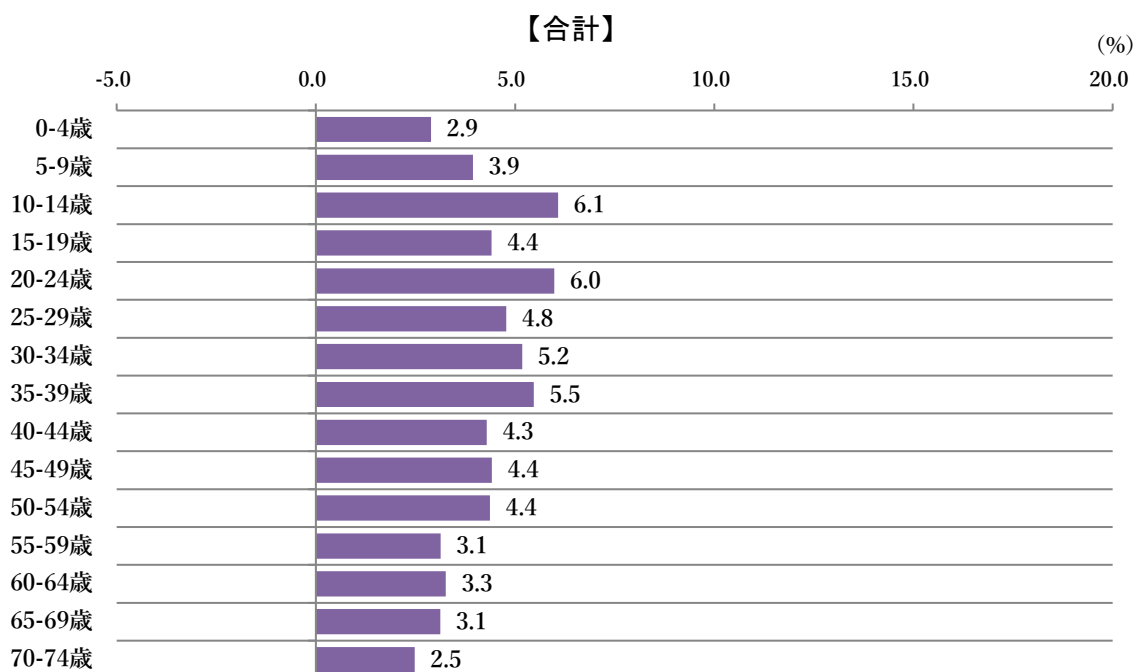
² 伸び率は、令和元年度および平成30年度の両年のデータ提供のある1,263組合の数値をもとに算出している。

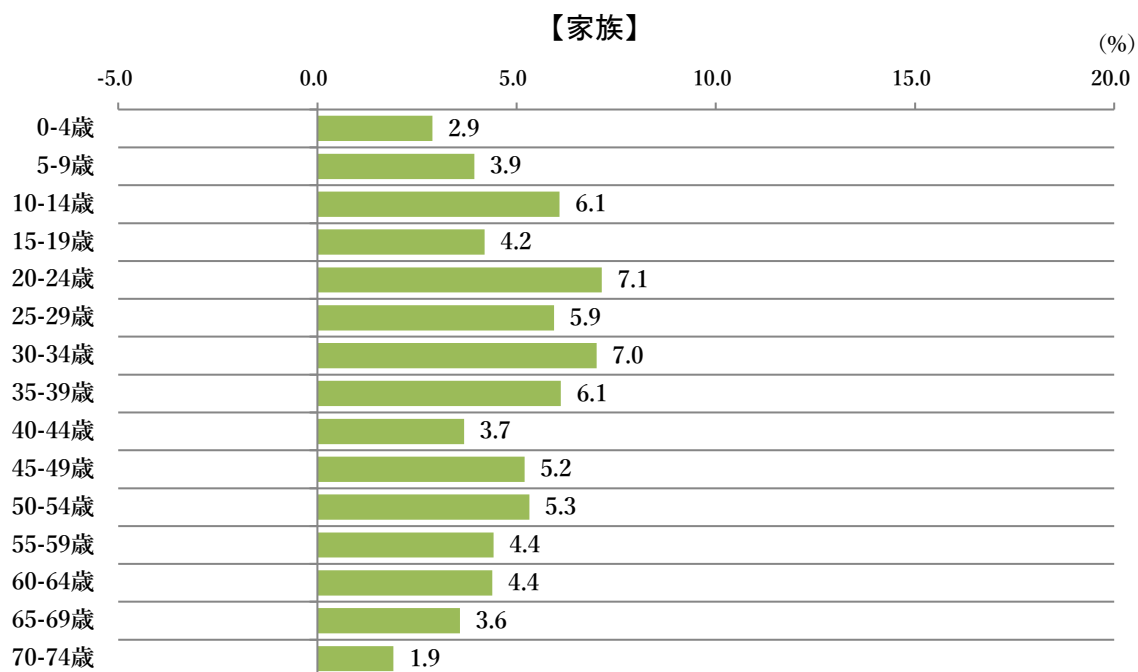
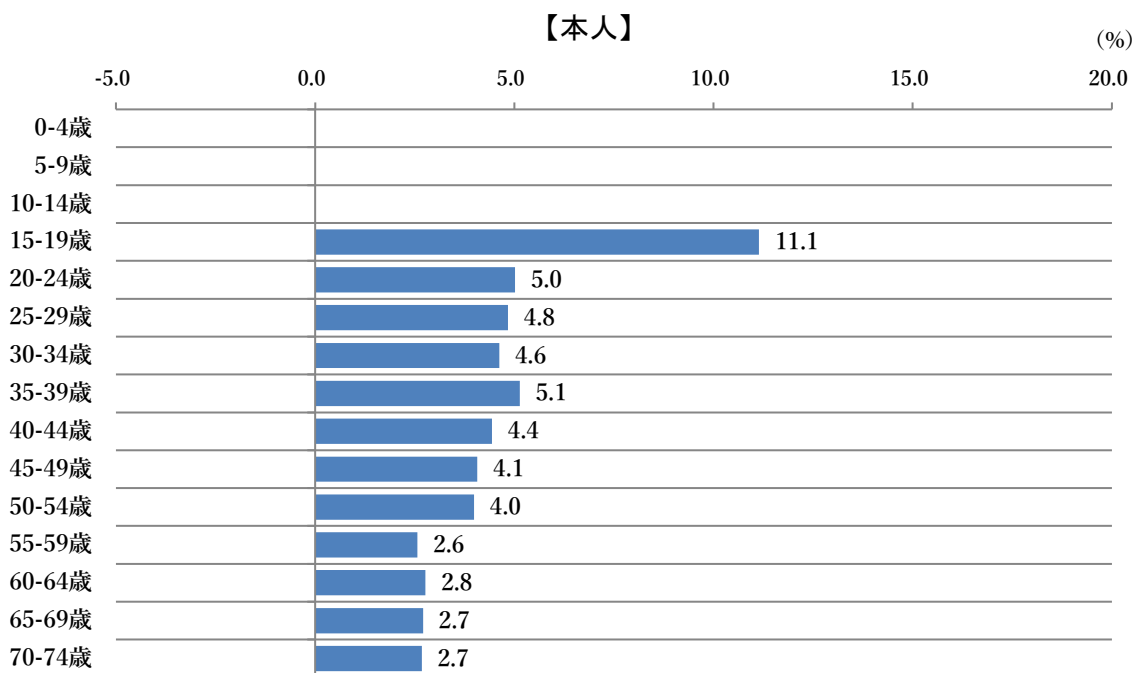


7. 年齢階層別にみた処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率

- 年齢階層別に処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率をみると、10-14歳：6.1%、20-24歳：6.0%、35-39歳：5.5%の順に高い。
- 本人・家族別にみると (p.11)、本人では15-19歳：11.1%、35-39歳：5.1%、20-24歳：5.0%となっており、家族では20-24歳：7.1%、30-34歳：7.0%、10-14歳および35-39歳：6.1%の順に高い。

年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率

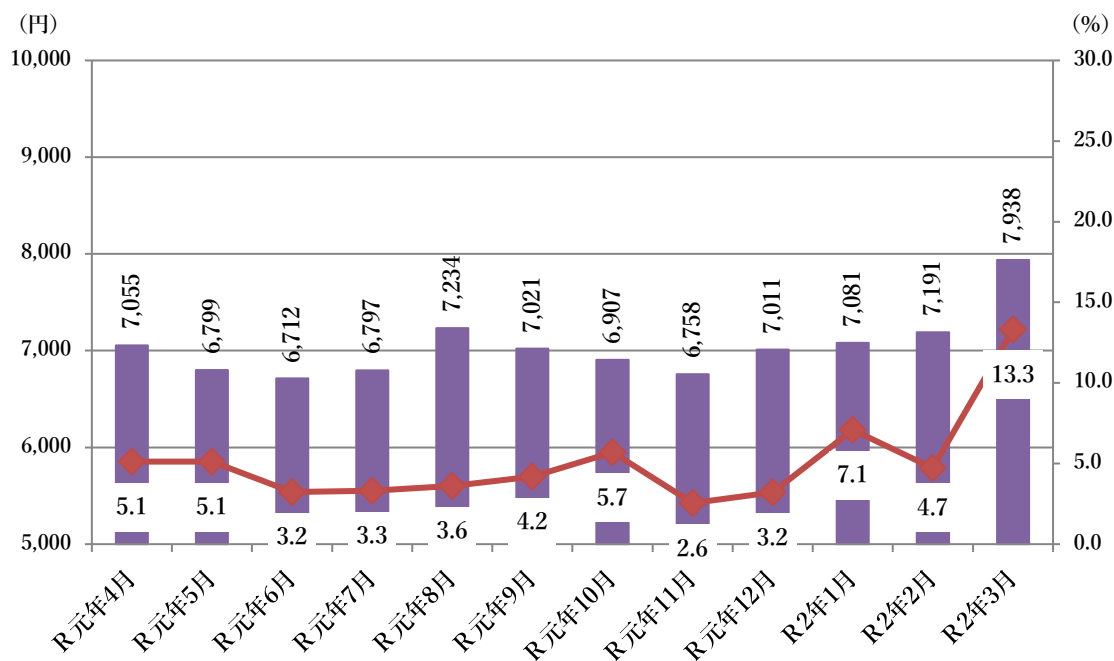




8. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率の月別推移

- 処方箋1枚当たり調剤医療費の月別推移をみると、3月：7,938円が最も高く、次いで、8月：7,234円、2月：7,191円となっている。
- また、伸び率の推移では、どの月においてもプラスの伸びとなっている。

処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率の月別推移



9. 後発医薬品の使用割合（数量ベース）と対前年度差

- 令和元年度の後発医薬品の使用割合（数量ベース）は 79.8%で、対前年度差 3.2%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人：81.9%（対前年度差：3.0%）、家族：76.9%（同：3.4%）となっている。

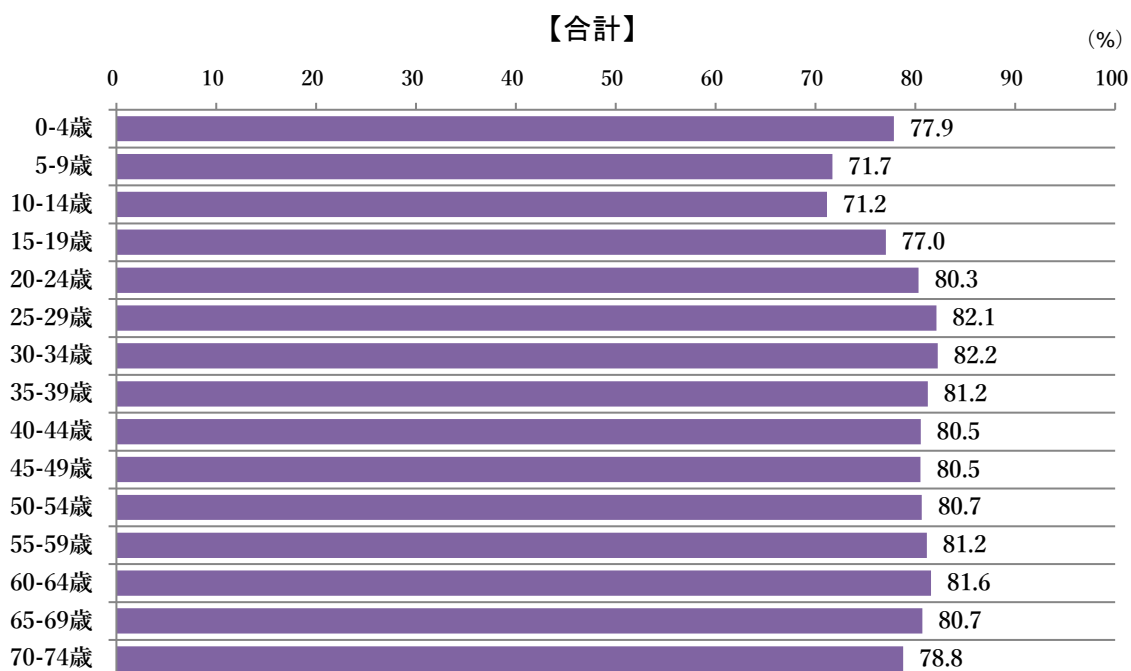
後発医薬品の使用割合と対前年度差

	令和元年度 (%)	平成 30 年度 (%)	対前年度差 (%) ³
合計	79.8	76.6	3.2
本人	81.9	78.9	3.0
家族	76.9	73.5	3.4

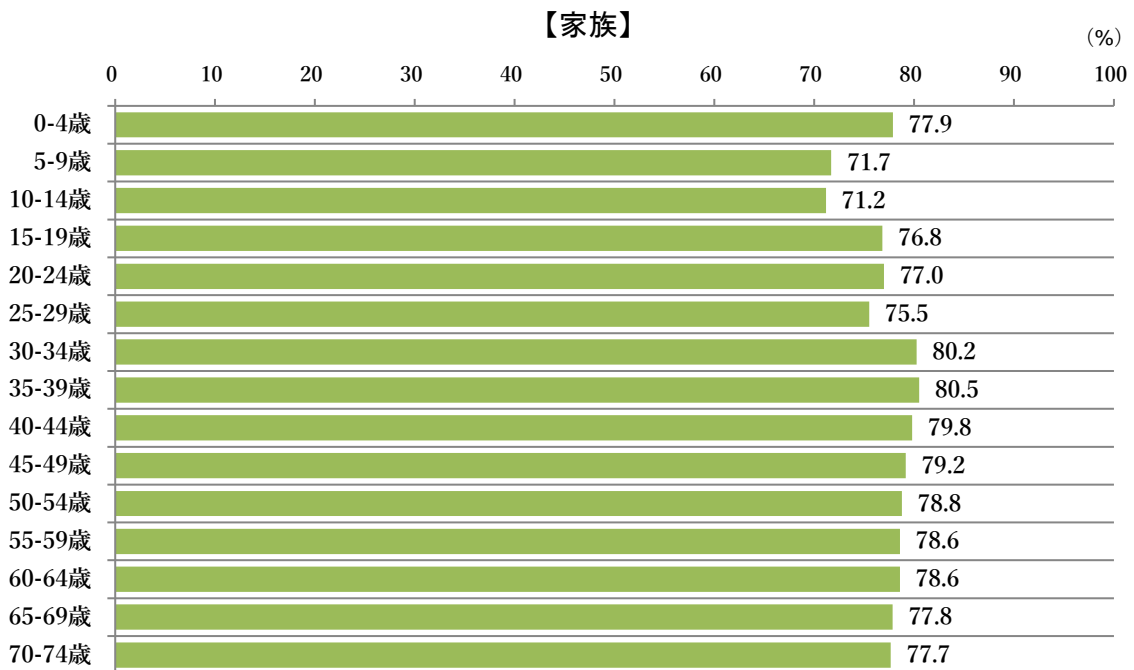
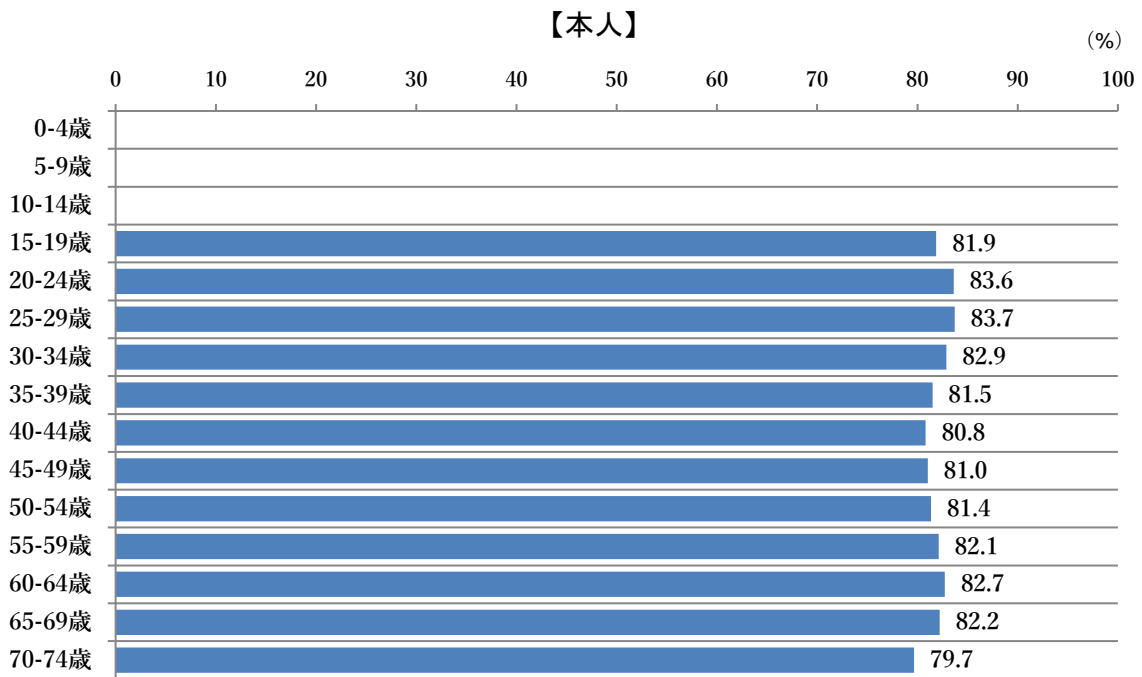
10. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）

- 年齢階層別後発医薬品の使用割合（数量ベース）をみると、30-34 歳：82.2%が最も高く、次いで、25-29 歳：82.1%、60-64 歳：81.6%となっている。
- 本人・家族別にみると（p.14）、本人では 20 歳代、家族では 30 歳代で比較的高い傾向となっている。

年齢階層別後発医薬品の使用割合（数量ベース）



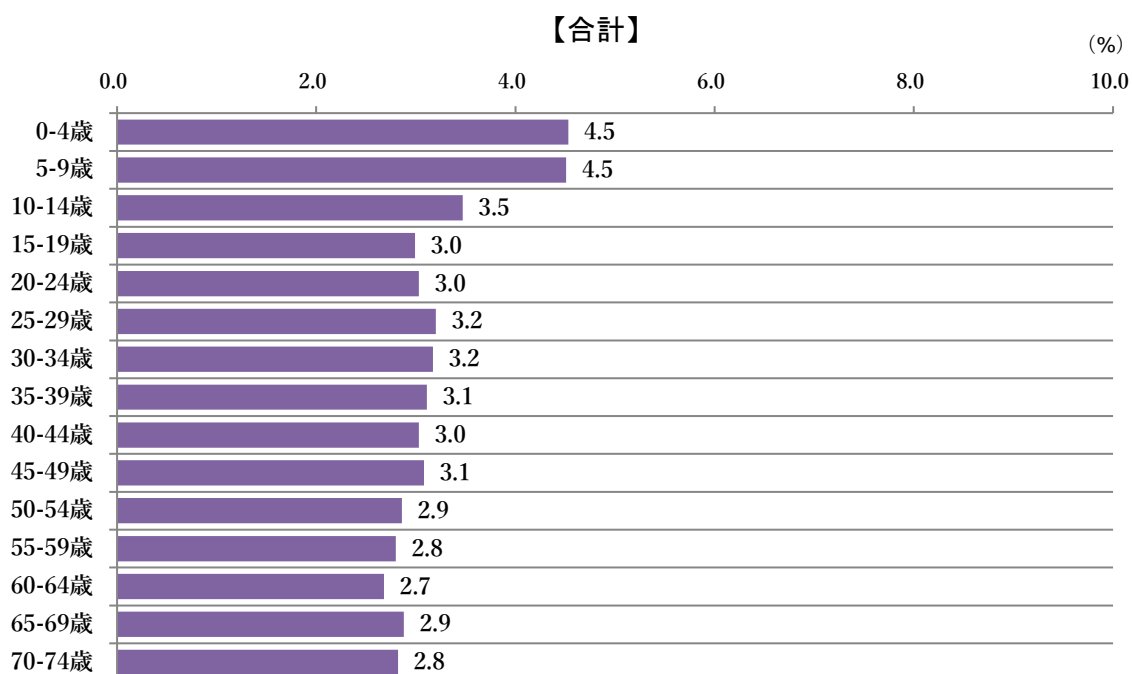
³ 対前年度差は、令和元年度および平成 30 年度の各年度の全数（令和元年度：1,295 組合、平成 30 年度：1,280 組合）をもとに算出したものである。



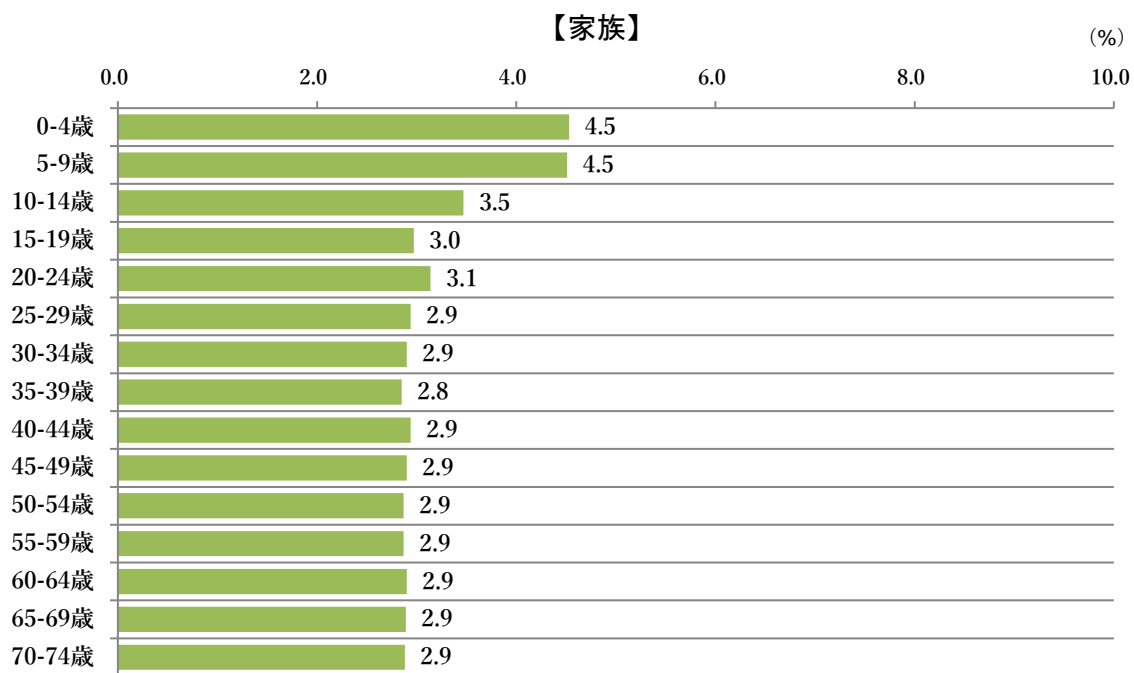
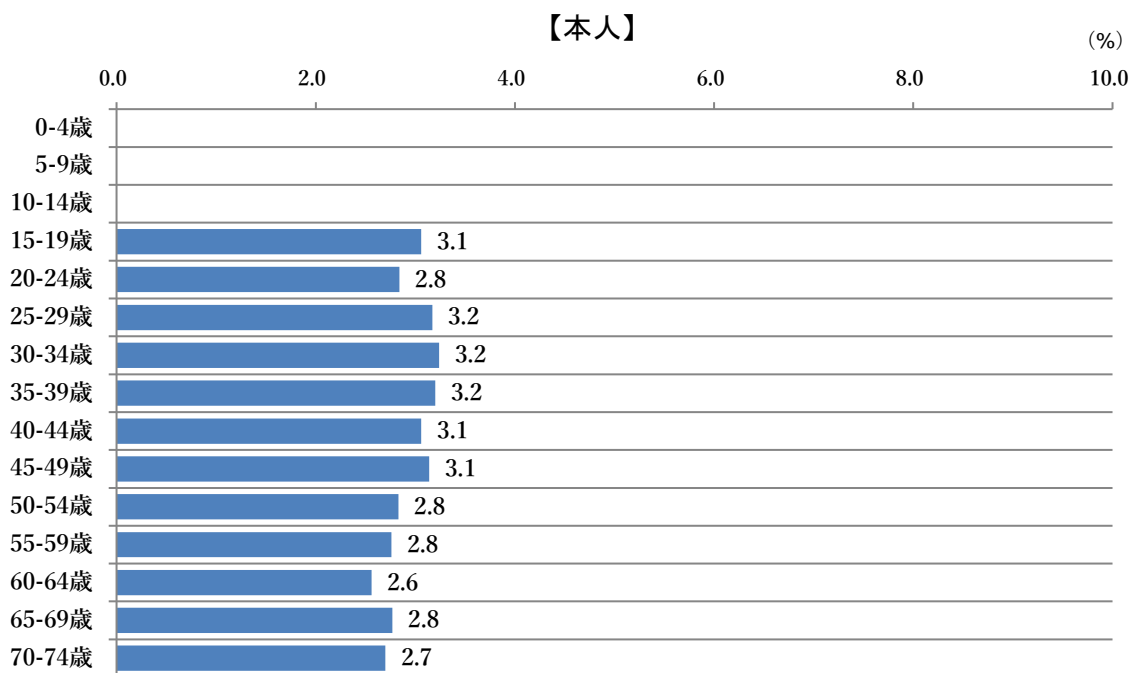
【参考】年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）の対前年度差⁴

- 年齢階層別に後発医薬品（数量ベース）の使用割合の対前年度差をみると、とくに0~9歳で増加しており、0~9歳：+4.5%、10-14歳：+3.5%、25~34歳：+3.2%の順となっている。
- 本人・家族別にみると（p.16）、本人では25~39歳：+3.2%が最も大きく、次いで、15-19歳および40~49歳：+3.1%、20-24歳および50~59歳、65-69歳：+2.8%となっている。家族では0~9歳：+4.5%が最も大きく、次いで、10-14歳：+3.5%、20-24歳：+3.1%となっている。

年齢階層別後発医薬品の使用割合（数量ベース）の対前年度差



⁴ 対前年度差は、令和元年度および平成30年度の各年度の全数（令和元年度：1,295組合、平成30年度：1280組合）をもとに算出したものである。



用語の定義

① 調剤医療費：

調剤レセプトの「決定点数」に10円をかけたものである。

② 調剤レセプト件数：

調剤レセプトの件数を指す。

③ 1人当たり調剤医療費：

調剤医療費を加入者数で割ったものである。「本人」の1人当たり調剤医療費であれば、「本人」の医療費を「本人」の加入者数（受診していない者も含む）で割ったものとなる。

④ 処方箋1枚当たり医療費：

調剤医療費の金額をレセプトに記載された処方箋受付回数で除したものである。処方箋1枚につき、どのくらい医療費が発生しているかの指標となる。医療費3要素の「1日当たり医療費」に相当する。

参考

○ 後発医薬品使用割合の算出方法：

後発医薬品の使用割合（数量ベース）は、厚生労働省による定義と同様、以下の算式に基づき算出している。なお、「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

◇ 後発医薬品使用割合（数量ベース）＝

$$\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{先発医薬品のある後発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$$

＜例＞コロナールシロップ2%（成分：アセトアミノフェン）を10ml使用した場合
コロナールシロップ2%（薬価基準コード：1141007Q1048）の規格単位は「2%1ml」と定められている。この場合、使用量10mlを規格単位の1mlで除算し、数量は10となる。

集計対象となる医薬品は、厚生労働省 HP「薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について」(<https://www.mhlw.go.jp/topics/2020/04/tp20200401-01.html>)に掲載された各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報に基づき選出している。